

講義科目名称： 臨床推論・クリティカルケア演習

授業コード： 2230501400

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	看護師課程選択必修
担当教員			
◎高柳智子、岡村典子、堀江正男、樺澤三奈子、山岸美奈子、相澤達也、坂田智佳子			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】</p> <p>◎高柳 智子</p> <p>◎相澤 達也</p> <p>樺澤 三奈子</p> <p>山岸 美奈子</p> <p>坂田 智佳子</p> <p>岡村 典子</p> <p>堀江 正男</p> <p>実務経験のある教員が担当します</p> <p>【研究室】</p> <p>203</p> <p>共同研究室3</p> <p>318</p> <p>共同研究室5</p> <p>共同研究室3</p> <p>216</p> <p>315</p> <p>【本学の科目区分】</p> <p>看護師課程選択必修</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】</p> <p>看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】</p> <p style="text-align: center;">◎ ○</p>
------	--

到達目標	<p>1. 臨床推論の思考プロセスを説明することができる。</p> <p>2. 救急外来に受診した患者の事例に対して、問診・フィジカルアセスメントの技術を活用し、病態を推論することができる。</p> <p>3. 集中治療ケアを受ける患者の事例に対して、病態・治療をふまえて必要な観察・アセスメントを行うことができる。</p> <p>4. 集中治療ケアを受ける患者の事例に対して、健康状態の回復を促進するための看護援助を計画することができる。</p> <p>5. クリティカルケア領域において、看護師と連携する他職種の役割と看護師の専門性について説明することができる。</p> <p>※各到達目標の具体的内容は、初回授業で配布予定の演習要項を参照</p>
------	--

授業概要	<p>クリティカルケアを受ける患者の事例展開を通して、クリティカルケアにおける臨床推論と看護実践の基礎的能力を習得する。アクティブラーニング型授業とし、フィジカルアセスメントスキルを活用するシミュレーション教育やグループワーク・グループディスカッションにより学習を進める。</p>
------	--

授業計画	<p>1 授業内容 授業形態：講義・演習(グループワーク・グループディスカッション) 学習課題：臨床推論の思考プロセス・救急外来に受診した患者事例の臨床推論① 学習内容：臨床推論の思考プロセス、救急外来に受診した患者事例の提示、臨床推論のグループワーク・グループディスカッション 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江</p> <p>2 授業内容 授業形態：演習 学習課題：救急外来に受診した患者事例の臨床推論② 学習内容：グループワーク・グループディスカッションによる学習成果の共有、仮説・観察計画の立案 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江</p> <p>3-4 授業内容 授業形態：演習・講義 学習課題：救急外来に受診した患者事例の臨床推論③ 集中治療ケアを受ける患者事例の臨床推論①</p>
------	--

	<p>5 学習内容：救急外来に受診した患者への問診・フィジカルアセスメント(シミュレーター使用)、グループでのデブリーフィングとアセスメント、専門家レクチャー、集中治療ケアを受ける患者事例の提示と臨床推論のグループワーク・グループディスカッション 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江、石井</p> <p>授業内容 授業形態：演習 学習課題：集中治療ケアを受ける患者事例の臨床推論② 学習内容：グループワーク・グループディスカッションによる学習成果の共有、仮説・観察計画の立案 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江</p> <p>6-7 授業内容 授業形態：演習・講義 学習課題：集中治療ケアを受ける患者事例の臨床推論③ 学習内容：集中治療ケアを受ける患者への問診・フィジカルアセスメント(シミュレーター使用)、グループでのデブリーフィングとアセスメント、看護計画の立案 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江</p> <p>8 授業内容 授業形態：演習・講義 学習課題：成果発表・まとめ 学習内容：看護計画の発表とディスカッション、専門家レクチャー 備考：高柳 樺澤 相澤 山岸 坂田 岡村 堀江、ゲストスピーカー</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：開講までに、フィジカルアセスメントやクリティカルケアに関する既習の学習内容を復習しておく。各回のワークシートの事前学習項目を確認し、必ず遂行したうえで受講する。 事後学習：各回のワークシートへの追加・修正を行う</p>
評価方法、評価基準	<p>事前・事後学習の遂行状況 25% 到達目標2・3・4の達成度を評価する。 グループディスカッション/グループワークならびにシミュレーション/デブリーフィングへの貢献度 30% 到達目標1・2・3・4・5の達成度を評価する。 成果発表 20% 到達目標4の達成度を評価する。 最終提出物(ワークシート、課題レポート) 25% 到達目標1・2・3・4・5の達成度を評価する。</p>
必携図書	<p>道又元裕 編集(2023)：看護判断のための気づきとアセスメント 急性期看護，中央法規。</p>
参考図書・資料等	<p>小澤知子 編著(2019)：アセスメントに自信がつく臨床推論入門 看護の臨床判断能力を高める推論トレーニング，メディカ出版。 小野田千枝子 監修(2008)：実践フィジカルアセスメント 改訂第3版，金原出版。 道又元裕他(2020)：クリティカルケア看護学 第2版，医学書院。 山勢博彰他(2024)：救急看護学 第7版，医学書院。</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<p>各回のワークシートの事前学習項目を各自で行ったうえで受講する。20分以上の遅刻は欠席扱いとし、原則として補講は実施しない。実習室での演習や実習室での自己練習の際には、臨床実習と同様にユニフォーム・ナースシューズ着用とし身支度を整えて行う。</p>
教員からのメッセージ	<p>複数領域の教員がクリティカルケアに従事する臨床看護師(ゲストスピーカー)とともに演習を担当し、3年次までの学修を統合した臨床推論力の育成を目指します。主体的な学習と、グループワークやデブリーフィングでのメンバーシップが目標到達への鍵になります。</p>
オフィスアワー	